

長野, 2016. 09. 15-16

胚凍結結果についてのメール配信システムの試み

HORAC グランフロント大阪クリニック

幸池 明希子、宮本 有希、大住 哉子、長滝谷 芳恵、関藤 孝昭、井上 朋子、
森本 義晴

【目的】近年、女性の社会進出が進み、就労しながら体外受精治療を受けている患者が増加している。また、高齢の患者が増加しているため卵巣予備能が低下し、良好胚が得られるまで採卵周期を繰り返す場合も多い。通常、当院では1回の採卵周期あたり最低3-5日通院が必要であったが、体外受精での胚凍結結果をメール配信するシステムを構築した。このことにより患者、クリニック双方にメリットがあったためその結果を報告する。

【対象と方法】当院の診療予約は診療予約システムアットリンク@link(株式会社オフショア：以下アットリンク)を利用して管理を行っている。2015年11月以降に体外受精を実施した胚凍結予定の患者を対象とし、診察までの待ち時間にアドレス登録をして貰った。胚凍結実施日にアットリンクの患者情報から胚凍結実施の有無、胚凍結回数について凍結実施予定患者毎にメール配信した。また、メール配信後3-4日以内に報告書を自宅へ郵送した。

【結果】以前は、患者は採卵後にクリニックに来院して、胚の状態について医師から説明を聞く必要があった。しかし、メール配信により受診の必要がなくなり、採卵後早期に結果を知ることが可能となった。患者は予め医師との診察で目標胚凍結回数を確認しているため、メール配信による凍結胚数の把握により、再度採卵を行うのか、もしくは融解胚移植へ進むのかを受診前にご夫婦で相談して決定することが可能となった。更に、クリニック側としては「凍結確認」という診察枠が削減されたため、その分を他の診察に割り当てることが可能となり、結果的に患者の待ち時間減少、または診察時の十分な時間の確保に繋がった。

【考察】クリニック全体の凍結確認システムを変更する事により患者来院回数を削減し患者満足度向上へ繋がっていると考えられる。現在、更なる患者の要望に沿えるようにアンケートを集計中であり、今後報告したいと考えている。